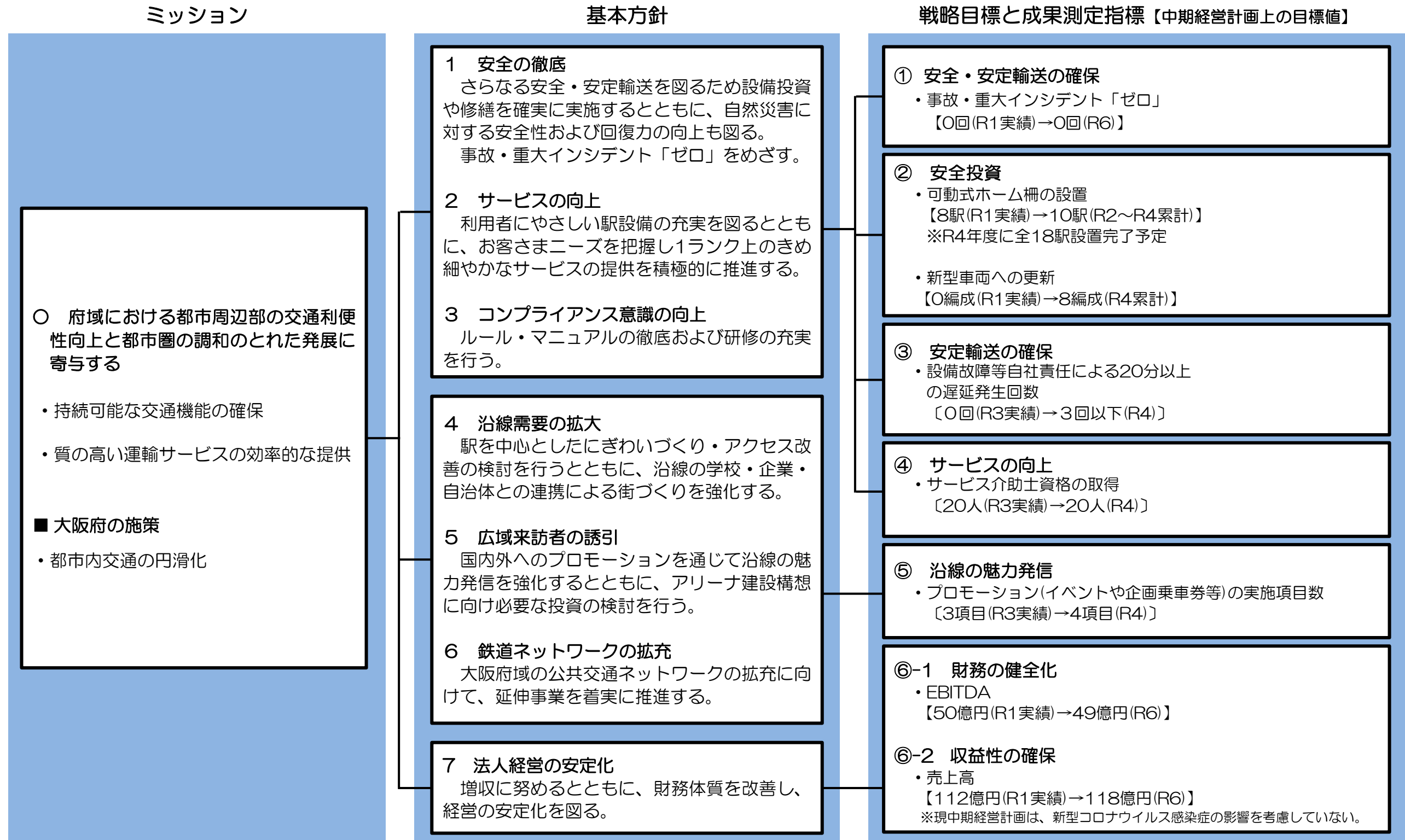


法人名	大阪モルレル株式会社
作成（所管課）	都市整備部交通戦略室鉄道推進課

## ○ 経営目標設定の考え方



法人名	大阪モノレール株式会社
-----	-------------

○ 令和3年度の経営目標達成状況及び令和4年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R2～R6)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R4 目標値	最終年度 目標値	
① 安全・安定輸送の確保	事故・重大インシデント「ゼロ」		件	30	0	0	0	0	30	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道事業者は安全・安定輸送が最大の使命である。</li> <li>・安全投資や維持修繕を確実に実施することにより、安全・安定輸送を確保する。</li> <li>・常に安全教育・訓練を実施し人材育成を行うことにより、安全マネジメント体制を強化する。</li> </ul>
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項	
最重点とする理由、 経営上の位置付け	大阪モノレールは、「安全な鉄道」として、お客さまから信頼される公共交通機関を目指すことが使命であることから、事故・重大インシデント「ゼロ」を最重点目標とした。											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>1. 優先順位を踏まえた安全投資の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、運輸収入は、R2年度～R3年度の2年間で約67億円減少し、さらにR4年度も約27億円の減収が予想される。(中期経営計画比)</li> <li>・このため、優先順位を踏まえた投資計画への変更が必要となり、R4年度も投資時期を見直しながら、安全投資を着実に実施する。</li> </ul> <p>2. 実践的な安全教育・訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模な実地訓練や警察・消防等との合同訓練が十分に実施できなかった。</li> <li>・R4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、非常時合同訓練、テロ対応訓練、軌道事故発生時の対応訓練など、例年実施している実践的な訓練を行う。</li> <li>・なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、訓練実施が困難な場合は、必要に応じてオンラインを活用した教育訓練を行う。</li> </ul>											
活動方針	<p>1. 優先順位を踏まえた安全投資の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ホーム転落事故防止対策</li> <li>②施設、車両の新設・更新・改良</li> </ul> <p>2. 実践的な安全教育・訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①社員一人ひとりの対応力強化</li> <li>②組織の対応力強化</li> <li>③委託会社等との連携強化</li> </ul>											
<p>1. 優先順位を踏まえた安全投資の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ホーム転落事故防止対策 ・可動式ホーム柵の設置 R4年度 3駅 【沢良宜駅(8月)、豊川駅(11月)、公園東口駅(2月)】 ※R4年度全18駅設置</li> <li>②施設、車両の新設・更新・改良 ・新型車両への更新 R4年度 2編成更新(7月、1月) ・万博公園変電所の更新 R4年度 2月完成(工期：R2年度～R4年度) ・光ケーブルの新設 R4年度 2月新設(R4年度) (大阪空港駅～千里中央駅)</li> </ul> <p>2. 実践的な安全教育・訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①社員一人ひとりの対応力強化 過去のヒューマンエラー・ヒヤリハット事例を共有し、ミーティング等を通じて毎月教育を実施する。</li> <li>②組織の対応力強化 大規模災害・事故、テロ発生時などにおけるお客さま救出(避難誘導)等の組織の対応力強化を図るため、沿線各消防・警察などと合同で、非常時合同訓練(10月)、テロ対応訓練(12月)、軌道事故発生時の対応訓練(2月)を実施する。</li> <li>③委託会社等との連携強化 点検や工事におけるトラブルの未然防止および再発防止を図るため、常駐している委託会社等と合同で技術検討会を年4回(5月、8月、11月、2月)実施する。</li> </ul>												

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R2~R6)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
② 安全投資	可動式ホーム柵の設置		駅	5	4	3	3	3	5	3	累計10 (R4目標値)	・ホームからの転落防止やお客さま ニーズの高い可動式ホーム柵は、 駅ホームの安全性を向上させるこ とから安全投資の指標とする。 ・設置数は中期経営計画どおり3駅と する。	・R4年度に全18駅設置完了予定。 ・R4年度は沢良宜駅、豊川駅、公園東口駅の3駅に設置する。
	新型車両への更新		編成	5	1	2	2	2	5	4	累計8 (R4目標値)	・新型コロナウイルス感染症の影響により、中期経営計画にお ける見込値よりも売上高が減少することから、新型車両などの 投資計画時期の見直しを行った。 ・この結果、R4年度は2編成を更新する。  <見直し後の計画> (単位:編成)	・新型コロナウイルス感染症の影響により、中期経営計画にお ける見込値よりも売上高が減少することから、新型車両などの 投資計画時期の見直しを行った。 ・この結果、R4年度は2編成を更新する。  <見直し後の計画> (単位:編成)
③ 安定輸送の確保	設備故障等自社責任による20分以上の遅延発 生回数		回	10	2	4	0	↓3	10	-	-	・設備故障等自社責任による遅延発 生回数が少ないことは安定輸送の 確保につながることから、遅延回数 を指標とする。 ・20分以上は、国への報告義務の30 分以上より厳しい目標値としたため である。 ・直近3年の平均値3回をR4年度の目 標値とした。	・最重要目標の活動事項の未然防止策に加えて、事後対応力 の強化のため教育訓練を実施する。 ・大阪府・消防・警察と連携した非常時合同訓練 ・情報伝達(発信)訓練 ・輸送障害により不通区間が発生した場合の折り返し運転訓練
④ サービスの向上	サービス介助士資格の取得		人	10	20	20	20	20	10	-	-	・多様化する利用者への対応力を強 化し、ワンランク上のサービスを提供 するために中期経営計画期間内 (R2~R6年度)に駅係員全員の サービス介助士資格の取得をめざ す。 ・R4年度も勤務調整で年間取得可能 な最大20名の取得を目指す。	・R3年度と同様に、R4年度も20名の資格取得をめざす。 <参考> サービス介助士とは、「公益財団法人 日本ケアフィット共育機構」 が主催し、高齢の人や障害がある人を手伝うときの「おもてなしの 心」と「介助技術」を学ぶ民間資格である。
駅ナカビジネスの展開	駅ナカでの物販等の新規展開店舗数		店舗	5	3	1	1	-	-	2	累計8	-	-
⑤ 沿線の魅力発信	プロモーションの実施項目数		項目	5	3	3	3	4	10	-	-	・R3年度に実施したスタンプラリーは 十分な需要喚起につながらなかった ため、項目から外し、新たに「イベ ント列車の運行」と「駅構内での沿 線の企業・学校・自治体によるイベ ント」の2項目を追加する。 ・R3年度に実施した「音楽フェス&マ ルシェの開催」は実施回数を増やす。	・R4年度に下記4項目のプロモーションを実施する。 ・イベント列車の運行(新規) ・駅構内での沿線の企業・学校・自治体によるイベント(新規) ・音楽フェス&マルシェの開催(万博記念公園駅イベント広場を 活用し、音楽イベントや催事物販を実施する) ・沿線施設の特典を拡充した企画乗車券の発売(モバイルチケ ットなど)

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

⑥-1 財務の健全化	EBITDA(営業損益+減価償却費+固定資産 除却費+長期前払費用)		億円	20	20	28	[29]	32	20	48	49	・設備投資計画の実現と南伸に向け た投資への備えのために、営業活 動で生み出されたキャッシュフロー であるEBITDAを指標とする。	・安全投資やサービス拡充の費用は堅持しつつ、業務の見直し 等により、運営コストの削減を行う。
⑥-2 収益性の確保	売上高(軌道業営業収益+兼業事業営業収 益)		億円	10	80	86	×[84]	88	10	116	118	・駅での賑わい創造、イベントや沿線 の情報発信強化、多様な企画乗車 の発売などにより、売上高の増加に つなげる。	・下記4項目の実施(再掲) ・イベント列車の運行(新規) ・駅構内での沿線の企業・学校・自治体によるイベント(新規) ・音楽フェス&マルシェの開催(万博記念公園駅イベント広場を 活用し、音楽イベントや催事物販を実施する) ・沿線施設の特典を拡充した企画乗車券の発売(モバイルチケ ットなど)

【凡例】

- ・☆はR4年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・( )内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

大阪モレール株式会社

## CS調査の実施概要

### ○令和3年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	<p>(1)委託会社 みずほリサーチ&amp;テクノロジーズ株式会社</p> <p>(2)実施方法 インターネットモニターアンケートを保有しているアンケート調査会社（株式会社マクロミル）が、調査条件に見合った回答者を抽出して、調査を実施</p>	<p>下記の条件の中で、1年以内に大阪モレールを利用したことがある京都府・大阪府・兵庫県在住者</p> <p>① 最寄路線が大阪モレール本線もしくは大阪モレール彩都線の方</p> <p>② 最寄路線が大阪モレール本線・大阪モレール彩都線以外の方</p>	<p>(1)回収サンプル数 スクリーニング調査回収数：60,000サンプル 本調査回収数：4,120サンプル 本調査で最寄路線が大阪モレール本線もしくは大阪モレール彩都線の方：1,442サンプル 本調査で最寄路線が大阪モレール本線・大阪モレール彩都線以外の方：2,678サンプル</p> <p>(2)本調査回答者・大阪モレール利用頻度分布 ①ヘビーユーザー（週4日以上）：441サンプル(10.7%) ②ミドルユーザー（月1日～週3日）：1,040サンプル(25.2%) ③ライトユーザー（過去1年では1日～年に数日）：2,639サンプル(64.1%)</p>	R3年12月8日(水)～ R3年12月12日(日)

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>&lt;実施結果&gt; 大阪モレールの各種満足度は、「運行の正確性」が最も高く3.73、次いで「可動式ホーム柵の設置」の3.72、「車内の快適性」の3.64と続いた。 一方、満足度が低い項目は、「最寄駅付近の開発状況」の3.23、次いで「他社線とのダイヤ接続の良さ」の3.25、「列車の運行頻度」の3.26と続いた。（※いずれも5段階評価の平均値）</p> <p>&lt;大阪モレールへの改善要望・希望&gt; ○運行ダイヤについて ■本数をもう少し増やしてほしい/良いと思う/ラッシュ時は増発してほしい/土日・休日に混むのが不便/本数が増えると便利で嬉しい</p> <p>○駅係員・運転士の案内・対応について ■対応は親切・丁寧で良いと思う/駅係員は明るい印象/アナウンスは好感が持てる/挨拶が気持ちよい/不満を感じたことがない</p> <p>○安全や事故防止への取組について ■ホーム柵が設置されている駅は安全で良いと思う/転落防止柵が良い/ホームが狭く混雑時に危ない/強風で止まることが多い</p> <p>○大阪モレールの駅構内にあれば便利な施設について ■銀行・ATM/子どもが遊べるスペース、おむつを替えるスペース/エレベーター・エスカレーター/トイレをきれいに/宅配受取ボックス</p> <p>○ブルーエール号について ■素晴らしくよい取り組み/素敵な企画/ラッピングは好感が持てる/医療従事者へ感謝・ありがとうの気持ちを伝えられてよい</p> <p>○運賃について ■少し高いと思う/もう少し安いと嬉しい/割引を検討してほしい/値下げ希望/初乗り運賃を下げしてほしい</p> <p>○企画乗車券について ■良いと思う/機会があれば是非利用したい/種類が豊富で良い/今後も魅力的なものを期待/利用したい取組みが多い</p> <p>○啓発してほしい駅や車内のマナー ■歩きながらのスマートフォン操作/車内でのマスク着用/座席の座り方</p>	<p>&lt;大阪モレールへの改善要望・希望を踏まえた取組&gt; ○運行ダイヤについて ■<b>行楽シーズンや沿線イベント開催に合わせた臨時列車を運行する。</b></p> <p>○駅係員・運転士の案内・対応について ■大阪・関西万博に向けて、<b>全駅社員へのサービス介助士資格の取得を進める。</b></p> <p>○安全や事故防止への取組について ■<b>可動式ホーム柵の設置や新型車両への更新を実施する。</b></p> <p>○大阪モレールの駅構内にあれば便利な施設について ■ベビールーム「mamaro」を設置(R1年度:万博記念公園駅、R2年度:蛍池駅、南茨木駅)しているほか、宅配便ロッカー「PUDO」を設置(R1年度:少路駅、沢良宜駅)している。</p> <p>○ブルーエール号について ■R2年11月から運行を開始し、R3年10月には日本鉄道賞特別賞を受賞した。現在も引き続き運行している。</p> <p>○運賃・企画乗車券について ■R3年度は非接触型のモバイルチケット（ジョルダン）で、お得なオフピーク乗車券と休日1日乗車券の発売を開始した。 <b>R4年度もモバイルチケット（ジョルダン）は引き続き発売する。</b></p> <p>○啓発してほしい駅や車内のマナー ■スマートフォンの「ながら歩き」による事故防止の啓発のため、駅・車内でのポスター掲示等を行っている。</p>

### ○令和4年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	未定	未定	未定	未定

■ 目標値未達成の要因について

法人名	大阪モジュール株式会社
-----	-------------

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
売上高（軌道業営業収益＋兼業事業営業収益）	億円	86	〔84〕	▲ 2

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）				要因分析を踏まえた今後の対応																			
①	緊急事態宣言期間の増加に伴う旅客数減少	<p>緊急事態宣言発令及びまん延防止等重点措置に伴う不要不急の外出自粛やテレワークの促進等による移動需要の抑制から、予想以上に運輸収入が減少した。 特に、4月、5月においては、沿線施設である万博記念公園の臨時休園やEXPOCITYの臨時休館、都道府県間移動の自粛に伴う空港需要の減少等が大きく影響した。 そのような中、投資時期の見直しや経費節減に努めたことで、R3年度決算では赤字から脱却し、黒字を確保した。</p> <p>【参考】</p> <table border="0"> <tr> <td>&lt;緊急事態宣言発令期間&gt;</td> <td>&lt;万博記念公園臨時休園期間&gt;</td> </tr> <tr> <td>2021年4月25日～6月20日</td> <td>2021年4月25日～6月20日</td> </tr> <tr> <td>2021年8月2日～9月30日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>&lt;まん延防止等重点措置期間&gt;</td> <td>&lt;EXPOCITY臨時休館期間&gt;</td> </tr> <tr> <td>2021年4月5日～5月5日</td> <td>2021年4月25日～5月31日</td> </tr> <tr> <td>2021年6月21日～8月1日</td> <td>(臨時休館/生活必需品販売店舗は除く)</td> </tr> <tr> <td>2022年1月27日～3月21日</td> <td>2021年6月1日～6月20日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(土日臨時休館/生活必需品販売店舗は除く)</td> </tr> </table>						<緊急事態宣言発令期間>	<万博記念公園臨時休園期間>	2021年4月25日～6月20日	2021年4月25日～6月20日	2021年8月2日～9月30日		<まん延防止等重点措置期間>	<EXPOCITY臨時休館期間>	2021年4月5日～5月5日	2021年4月25日～5月31日	2021年6月21日～8月1日	(臨時休館/生活必需品販売店舗は除く)	2022年1月27日～3月21日	2021年6月1日～6月20日		(土日臨時休館/生活必需品販売店舗は除く)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、需要喚起策を実施し、売上高の目標達成に向け取組んでいく。 また、R4年度も安全投資やサービス拡充の費用は堅持しつつ、業務の見直し等により、運営コストの削減を行い、継続して黒字を確保する。</p>	
		<緊急事態宣言発令期間>	<万博記念公園臨時休園期間>																						
2021年4月25日～6月20日	2021年4月25日～6月20日																								
2021年8月2日～9月30日																									
<まん延防止等重点措置期間>	<EXPOCITY臨時休館期間>																								
2021年4月5日～5月5日	2021年4月25日～5月31日																								
2021年6月21日～8月1日	(臨時休館/生活必需品販売店舗は除く)																								
2022年1月27日～3月21日	2021年6月1日～6月20日																								
	(土日臨時休館/生活必需品販売店舗は除く)																								
項目名	売上高	R3当初想定値	86億円	実績値	84億円	差	▲2億円																		
②																									
		項目名		R3当初想定値		実績値			差																

法人名

大阪モルレル株式会社

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
駅ナカビジネスの展開	店舗	1

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
-	-	-

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	<p>中期経営計画では駅ナカビジネスの展開として駅ナカでの物販等の新規展開店舗数を目標値と定めていた。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、既存店舗の売上高が減少している中での新規出店は、出店側の収益確保が困難と見込まれることから、当面見送ることとする。</p> <p>なお、今回新たな目標は設定しないが、万博記念公園駅構内でのイベント開催時に催事ブースを設けるなど、収益が期待できる内容に変えて駅ナカビジネスを展開していく。</p>
------------------------------	---

〔2〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値

成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由	
------------------------------	--

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
可動式ホーム柵の設置	駅	3	3

<b>マイナス （現状維持） 目標の考え方</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度3駅に設置することで、全18駅にホーム柵の設置が完了予定。</li> <li>・R4年度は沢良宜駅、豊川駅、公園東口駅の3駅に設置する。</li> </ul>
-----------------------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
新型車両への更新	編成	2	2

<b>マイナス （現状維持） 目標の考え方</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、中期経営計画における見込値よりも売上高が減少することから、新型車両などの投資計画時期の見直しを行った。</li> <li>・この結果、R4年度は2編成を更新する。</li> </ul> <p>&lt;見直し後の計画&gt; (単位：編成)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中期経営計画（2020-2024）</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>見直し後</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計	中期経営計画（2020-2024）	1	3	4	0	0	0	8	見直し後	1	2	2	0	2	1	8
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計																		
中期経営計画（2020-2024）	1	3	4	0	0	0	8																		
見直し後	1	2	2	0	2	1	8																		

法人名	大阪モルレル株式会社
-----	------------

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生回数	回	0	3

<p><b>マイナス（現状維持）目標の考え方</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備故障等自社責任による遅延発生回数については、国への報告義務の30分以上より厳しい指標としている。</li> <li>・そのうえで、R4年度は直近3年の平均値3回を目標値とした。</li> </ul> <p>&lt;参考&gt;</p> <p>R1年度実績 7回 R2年度実績 2回 R3年度実績 0回</p>
--------------------------------	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値〔見込値〕	R4年度の目標値
サービス介助士資格の取得	人	20	20

<p><b>マイナス（現状維持）目標の考え方</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度からスタートした中期経営計画では、1ランク上のきめ細やかなサービスの向上のため、社員研修の充実の一環で駅係員全員のサービス介助士資格取得を計画している。</li> <li>・R3年度は勤務調整で年間資格取得可能な最大20名のうち、全員が当初目標通り資格取得することができた。</li> <li>・R4年度も引き続き20名の資格取得を目標とする。</li> </ul>
--------------------------------	---